

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第 126 号

令和5年 7・8・9月



国宝 阿弥陀如来坐像 9軀のうち その8（京都・淨瑠璃寺〔木津川市〕）

特別展

淨瑠璃寺九体阿彌陀修理工記念
みなみやましろ

聖地 南山城

-奈良と京都を結ぶ祈りの至宝-

7月8日(土)~9月3日(日)

東・西新館

名品展

珠玉の仏たち

通年
なら仏像館

中国古代青銅器

通年
青銅器館

淨瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念

聖地 南山城

—奈良と京都を結ぶ祈りの至宝—

7月8日(土)～9月3日(日)

京都府の最南部、奈良市に隣接する地域は旧国名の山城国にちなんで、いま「南山城」と呼ばれています。なだらかな山間を木津川が流れる風光明媚な地であり、仏教の伝来後、七世紀にはこの地域でも寺院の建立がはじまりました。

南山城が歴史の表舞台に登場するのは、聖武天皇の恭仁京造営によつてであり、木津川への架橋や寺院の建立などに行基の活躍がありました。平城京から長岡京・平安京への遷都以降も南山城は新旧両都をつなぐ回廊的な役割を果たす地域として、重要性を増すことになります。東大寺や興福寺といつた奈良の大寺との関わりのなかで寺院があいついで建立され、また木津川流域の山々は俗世を離れた聖地として山岳修験の拠点とされました。

鎌倉時代には、はじめ興福寺に学んだ解脱上人貞慶が笠置寺から海住山寺へと拠点を移し、利迦如來や弥勒菩薩、觀音菩薩に対する信仰を深めるとともに、南都の戒律復興に努めたことが特筆されます。さらに江戸時代には、各地で念佛を広めた袋中上人が晩年に瓶原（木津川市加茂町）を拠点とするなど、南山城は各時代を通じて文字どおり日本仏教の聖地でありつづけました。

本展は、五か年に及ぶ保存修理が完成した淨瑠璃寺九体阿弥陀像のうち二軀を修理後初公開するとともに、その優美な姿を寺外で拝することのできるまたとない機会となります。さらに南山城とその周辺地域の寺社に伝わる仏像や神像を中心に、絵画や典籍・古文書、考古遺品などを一堂に展観することで、この地に花開いた仏教文化の全貌に迫ります。多彩な作品を通して南山城のゆたかな歴史と文化を再認識していくとともに、縁深いこの地域にいまなお受け継がれる聖地の息づかいをご堪能ください。



笠置寺弥勒磨崖仏 遠景
画像提供：笠置寺



重要文化財 薬師如來坐像（京都・淨瑠璃寺〔木津川市〕） 展示期間：7月9日(日)～8月6日(日)

重要文化財 十二神将立像のうち辰神・巳神・未神・申神・戌神
(東京国立博物館)
画像提供：東京国立博物館

重要文化財 十二神将立像のうち子神・丑神・寅神・卯神・午神・酉神・亥神
(東京・静嘉堂文庫美術館)
画像提供：(公財)静嘉堂 DNPartcom



木津川市指定文化財 地藏菩薩坐像（京都・西教寺〔木津川市〕）



重要文化財 薬師如來坐像（京都・薬師寺〔和束町〕）



京都府指定文化財 牛頭天王立像
(京都・朱智神社〔京田辺市〕)



重要文化財 菩薩形立像
(京都・常念寺〔精華町〕)



重要文化財 十一面觀音立像
(京都・海住山寺〔木津川市〕)

ハーバード美術館蔵「如意輪觀音像」について —在米の大安寺関連絵画—

当館学芸部情報サービス室長 北澤 菜月

筆者は本年一月から三月まで「ミュージアム専門職員等在外派遣研修」のため米国のハーバード美術館に滞在した。今回の研修は博物館職員として、海外の博物館運営の現状を学ぶことを主な目的としたが、あわせて作品調査の許可をいたくことができた。博物館運営に関する研修内容については別に報告の機会があるので『博物館研究』八月号に掲載予定)、ここでは当館で昨年春に開催した特別展「大安寺のすべて」に関連するハーバード美術館所蔵の絵画について紹介させていただくことにしたい。

本図(図1)は絹本着色の絵画で、縦三五・五、横一八・二センチメートルの小幅である。絵の支持体となる絹をよく観察すると、絵を描くための絹(画絹)ではなく、平絹と呼ばれる一般的な絹に描かれていることが分かる。金色の身体で六本の腕を持つ如意輪觀音が波間の岩場に座る姿が描かれている。これは觀音がその住処である補陀落山に在る様子で、こうした画像については特に左側に金泥で記された文字が注目される。書き起こすと次の通りである。

「□□年五丁□月廿二日 和州於大安寺書之」「豊敏(花押)」

残念ながら文頭の元号は薄れて見えないが、「五年」の干支が「丁丑」となる中世の元号は、安土桃山時代の天正五年(一五七七)あるいは、鎌倉時代の建保五年(一

二一七)に限られ、本図の絵画表現から、本図の成立が鎌倉時代前半に遡るとは考え難く、年記は前者の天正五年に絞られる。とすればこの記述は、この金泥銘または絵画そのものを、天正五年に豊敏という名の僧が大安寺で記した(または描いた)ことを意味するものといえる。画面を改めて見ると、觀音の姿が画面の中心ではなく、右寄りに位置しており、署名と花押が年記と離れて左下に大きく配置されていることに気付く。この署名と花押の位置は、この種の如意輪觀音像では通例、龍王や善財童子のような、觀音を礼拝する者が描かれる場所であり、本図の署名はそれを意識した配置と想像される。

そもそも仏画の画面中に署名と花押を記すのは珍しいが、本図の類例として、やはり在米の個人コレクション(the John C. Weber Collection)に含まれる「地蔵菩薩來迎図」がある。この絵画では雲に乗る地蔵の視線の先に堯範という僧の署名と花押が記され、自らの死後の救済を願う生前の供養のために記されたと考えられる。ここでは、來迎を受ける者が描かれる場所に署名と花押が配置されたといえる。堯範は周辺史料から十六世紀に活躍した興福寺僧と知られるから、「如意輪觀音像」と同様に、十六世紀の南都で画中に署名と花押を記す例があつたことが分かる。

奈良時代にはインド、中国、ベトナムなどから僧が集う、国際的な最新仏教の学びの場であった大安寺は、鎌倉時代までは興福寺や東大寺、西大寺により支えられるようになり、その後室町時代以降近世までの間、天災もあって伽藍は衰退することになる。天正五年の大安寺は、明応三年(一四九四)の大地震の後、復興ままならずの状況であつたと想像される。この時期の大安寺の様相は示す資料は少なく、本図は天正年間の大安寺に関する稀有な資料として貴重といえよう。また室町時代の大安寺には、大安寺絵所という絵師集団が存在したことが史料から知られているが、その作と認められる作例は現在知らない。豊敏の実態とあわせさらに調査を進める必要があるが、本図が大安寺絵所の作である可能性も考え得よう。



図1 如意輪觀音像 ハーバード美術館蔵(2014.146)

出陳一覽

名品展
珠玉の仏たち

なら仏像館

令和5年5月16日(火)~

【彫刻】

〔第1室〕

阿弥陀如来立像

◎観音菩薩立像

不動明王立像

善導大師坐像

尼藍婆坐像・毘藍婆坐像

天部形立像

阿彌陀如來坐像

阿彌陀三尊像

阿彌陀如來坐像

個人

法徳寺

現光寺

善集院

〔第3室〕

當館

阿彌陀如來坐像

阿彌陀如來坐像

阿彌陀如來坐像

阿彌陀如來坐像

阿彌陀如來坐像

阿彌陀三尊像

火頭形三尊壇仏(伝奈良県橘寺出土)

南法華寺

當館

〔第4室〕

○薬師如來坐像

○十一面觀音菩薩立像

如意輪觀音菩薩坐像

如來像

諸尊仏龕

如來像

塑像断片(迦樓羅頭部ほか)

(奈良県川原寺裏山遺跡出土)

塑像断片(天部・僧形像ほか)

(滋賀県雪野寺出土)

明日香村教育委員会

塑像断片(天部・僧形像ほか)

(奈良県川原寺裏山遺跡出土)

明日香村教育委員会

小型独尊壇仏(三重県夏見廃寺出土)

当館

○如來三尊像

四天王立像

天部形立像

二天王立像

毘沙門天立像

高尾地藏堂

室生寺

西大寺

淨土寺

秋篠寺

松尾寺

西光院

元興寺

興福寺

歎喜寺

海住山寺

地藏菩薩立像

金峯山寺

〔特別公開〕

○金剛力士立像

東大寺

當館

○光背(二月堂本尊所用)

東大寺

當館

○不動明王坐像

東大寺

當館

○馬頭觀音菩薩立像

東大寺

當館

○不動明王坐像

東大寺

當館

〔第8室〕

○如來三尊像

天部形立像

增長天立像

法徳寺

個人

天部形立像

法徳寺

個人

〔第12室〕

天部形立像

法徳寺

個人

〔第13室〕

持國天立像・增長天立像

天部形立像

法徳寺

個人

〔第11室〕

持國天立像・增長天立像

天部形立像

法徳寺

個人

中國古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館



中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※●=国宝、○=重要文化財
※展示品は都合により一部変更する場合があります。

◆キャンパスメンバーズ

令和5年7月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

追手門学院大学文学部・国際教養学部、大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、大阪大谷大学、関西大学・関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国际高等部・関西学院大阪インターナショナル、京都大学、京都外国语大学・京都外国语短期大学、京都工艺纤维大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部・教育学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校・同志社国際学院国際部、奈良大学・奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学

(以上、五十音順)

◆奈良国立博物館賛助会

令和5年7月1日現在、特別支援会員2団体、特別会員7団体、一般会員(団体)14団体、一般会員(個人)103名のご入会をいただいているおります。

[特別支援会員] 株式会社読売新聞大阪本社

[特別会員] 株式会社奥村組西日本支社、株式会社朝日新聞社、

株式会社ライブアートブックス、株式会社ゴードー、

株式会社大和農園ホールディングス、株式会社葉風泰夢、株式会社結の会

[団体会員] 日本通運株式会社、株式会社尾田組、

株式会社伏見工芸、株式会社木下家具製作所、株式会社天理時報社、

株式会社さんでん奈良支店、奈良信用金庫、株式会社ひかり装飾、

株式会社南都銀行、株式会社小山、株式会社ワールド・ヘリテイジ、

奈良県有名専門店会

[個人会員(新規)]

横川 隆一様 令和5年4月ご入会

◆「奈良博メンバーシップカード」 「国立博物館メンバーズパス」のご案内

当館の特別展(記名者本人のみ4回まで)や名品展・特別陳列(常設展)を無料でお楽しみいただける「奈良博メンバーシップカード」を販売しております。「奈良博メンバーシップカード」の特典として、各特別展にて研究員の解説付きの特別鑑賞会(抽選制)を実施しております。

また、国立博物館4館の平常展(当館では「名品展」)等を無料でご観覧いただける「国立博物館メンバーズパス」も販売中です。

詳細は右記QRコードからご確認いただくか、当館観覧券売場へお問い合わせください。



5,000円
博物館より送付「有」



4,500円
博物館より送付「無」

◆ワークショップ開催情報◆

今年5月、なら仏像館と新館をつなぐ地下回廊の一角に、仏教美術について体験的に楽しく学べる教育普及スペース「ちえひろば」がオープンしました。「ちえひろば」では、「まいにちワークショップ」と「とくべつワークショップ」の2種類のワークショップを定期的に開催しています。いずれも参加費無料・申込不要ですので、ぜひお気軽にお立ち寄りください!

【まいにちワークショップ】

仏像に関するクイズや、仏像に使われる木材を触る展示などををお楽しみいただけます。

【開催日時】 開館日毎日

10:00~16:00

(第2・4日曜をのぞく)



【とくべつワークショップ】

仏像や絵巻物などのレプリカに触れる体験ができます。

①ほとけさまに服を着せよう!

裸の仏像のレプリカに服を着せるワークショップです。ほとけさまがどのように服を着ているのか、実際に着付けをしながら学べます。

【開催日時】 基本毎月第2日曜日

10:30~15:30



②絵巻物をみて!きいて!さわろう!

当館蔵の国宝「辟邪絵」や国宝「地獄草紙」などを大型化した絵巻物「びっくり絵巻物」を用いてボランティアが読み聞かせをした後、希望者に原寸大の絵巻物のレプリカを触っていただけのワークショップです。絵巻物のストーリーを楽しめるとともに、昔の人びとが、どのように絵巻物を扱っていたのかを学べます。

【開催日時】 基本毎月第4日曜日

10:30~15:30



【表紙解説】

阿弥陀如来坐像

九軀のうちその8

平安時代後期には浄土信仰の広まりを背景に、九体の阿弥陀如来像を安置する九体阿弥陀堂が数多く建てられた。浄瑠璃寺本堂は平安時代にさかのぼる現存する唯一の遺構であり、堂内には來迎印を結ぶ周丈六の像を中心として、左右に四軀ずつ定印を結ぶ半丈六の像が並んで安置される。

平成三十年(二〇一八)度より五か年の計画で実施された九体阿弥陀像の保存修理は、明治四十二年(一九〇九)から翌年にかけておこなわれた前回修理以来、およそ一一〇年ぶりの大事業で、本年三月に完成した。最終年度に修理されたその1とその8を公開する本展は、両像の優美な姿を寺外で拝することのできるまたとない機会となる。

※浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念 特別展「聖地南山城—奈良と京都を結ぶ祈りの至宝—」にて展示

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

奈良と京都を結ぶ祈りの至宝

木造 漆箔
像高一四一・二cm
平安時代(十二世紀)
京都 浄瑠璃寺「木津川市」

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

■7月16日(日)

「家の中のいろいろな虫たちの話」

小峰 幸夫(当館学芸部研究員)

日本には昆虫が3万種いるといわれており、その一部の種がヒトの生活と関わりをもっています。ここでは、ヒトの生活に関わる昆虫のうち、家の中で見られる昆虫の種類や、その生態などを紹介します。

[受付期間 6月26日(月) 10:00~7月15日(土) 17:00]

■8月20日(日)

「文化財の魅力を広めるための挑戦」

翁 みほり(当館学芸部研究員)

文化財の魅力を広めるために、奈良博では様々な取り組みをおこなっています。文化財のレプリカを活用したワークショップやオンライン展示見学の実施など、新たな事業にも取り組んでいます。そうした数々の挑戦について、裏話も交えながらご紹介します。

[受付期間 7月31日(月) 10:00~8月19日(土) 17:00]

■9月17日(日)

「東アジアの仏教絵画を見渡す」

北澤 菜月(当館学芸部情報サービス室長)

日本の仏教絵画史を軸にしながら、関連する中国・朝鮮半島の絵画を見ていきたいと思います。それぞれの時代についてトピックを作ってお話しする予定です。

[受付期間 8月28日(月) 10:00~9月16日(土) 17:00]

■10月15日(日)

「獅子・狛犬の魅力」

内藤 航(当館学芸部研究員)

神社に参拝する人びとを迎える一対の狛犬。本当は獅子・狛犬と区別されることをご存じですか。ふたつの靈獸が出会うまでは長い道のりがあり、ここ日本で独自の発展を遂げました。その歴史と造形の魅力をお話しします。

[受付期間 9月29日(金) 12:00~10月14日(土) 17:00]

■11月19日(日)

「文化財を科学するVIII」

鳥越 俊行(当館学芸部保存修理指導室長)

古代から近世にかけて製造された日本の貨幣について、東京国立博物館が所蔵するコレクションを科学分析した結果を中心に、最新の成果をお話しします。

[受付期間 11月2日(木) 12:00~11月18日(土) 17:00]

■12月17日(日)

「藤原道長と紫式部の時代」

斎木 涼子(当館学芸部別品室長)

平安時代中頃の貴族たちはどういう社会に生きていたのか、「摂閥政治」とはどういうものであったのか、貴族の日記や文学作品から、時代を読み解きます。

[受付期間 12月1日(金) 12:00~12月16日(土) 17:00]

【時 間】 各回とも14:00~15:30 (13:30開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回180名(事前申込先着順)

【申込方法】 当館ホームページより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

❖ 浄瑠璃寺九体阿弥陀修理工記念特別展「聖地 南山城—奈良と京都を結ぶ祈りの至宝—」公開講座 ❖

■7月29日(土)

「華開く仏教文化～南山城の古代寺院から」

菱田 哲郎氏(京都府立大学文学部教授)

[受付期間 6月19日(月) 10:00~7月3日(月) 17:00]

■8月19日(土)

「南山城と律宗の美術」

谷口 耕生(当館学芸部企画室長)

[受付期間 7月3日(月) 10:00~7月17日(月) 17:00]

■8月26日(土)

「聖地 南山城の神と仏」

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

[受付期間 7月3日(月) 10:00~7月17日(月) 17:00]

【時 間】 13:30~15:00(13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回180名(事前申込抽選制)。座席指定はありません。

【応募方法】 当館ホームページ「講座・催し物」→「公開講座」申込フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※当選者には参加証(当選メール)をお送りいたします。当日必ずご提示ください。

※応募はお1人様1回でお願いいたします。

❖ 第49回 奈良国立博物館夏季講座「仏教美術から地域を読み解く」❖

今夏、奈良国立博物館では特別展「聖地 南山城」を開催いたします。この展覧会に関連して、各地に伝わる様々な仏教美術を通じて、その地域の歴史や信仰の様相を浮き彫りにする、2日間の連続講座を開催します。

【日 時】 8月22日(火)・8月23日(水)

【主 催】 奈良国立博物館

【会 場】 当館講堂

【定 員】 180名(事前申込制)

※定員を超えた場合は抽選。

【受 講 料】 2,500円 ※特別展または名品展の入場料は含みません。

【申込方法】 当館ホームページ「講座・催し物」→「公開講座」申込フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 7月4日(火)10:00~7月18日(火)17:00

【プログラム】

・8月22日(火) 13:00~ 受付・開場

開会挨拶 13:30~13:35

第一講 13:35~15:05 小林 和華子氏

(木津川市教育委員会文化財保護課主任)

第二講 15:20~16:50 大河内 智之氏(奈良大学准教授)

・8月23日(水) 9:30~ 受付・開場

第三講 10:00~11:30 寺島 典人氏(大津市歴史博物館学芸員)

第四講 13:00~14:30 岩井 共二(当館学芸部美術室長)

第五講 14:45~16:15 井形 進氏(九州歴史資料館学芸研究班長)

閉会挨拶 16:15~16:20

※オンライン配信は行いません。予めご了承ください。

名品展「珠玉の仏たち」

にじゅうはちぶしゅうりゅうぞう
二十八部衆立像

のうち
かるらおう
迦樓羅王

木造
彩色(現状古色)
像高53.5cm
鎌倉時代(13世紀)
当館



展示品のみどころ

名品展「中国古代青銅器」

ほうおうもんゆう
鳳凰文卣

青銅鑄製
総高51.4cm
中国・商(殷)末期～西周初期
(紀元前11～前10世紀)
当館(坂本コレクション)



当館の中国古代青銅器の白眉である。本場中国でもまれな作品で、これを目当てに海外から来る専門家もいる。

専門家もいる。卣と呼ばれる酒壺で、ふっくらとした胴に傘形の蓋がかぶさり、肩に提げ手が付く(モヒカンのように中央に立つののが提げ手。横から見ればΩ形)。本来、卣はシンプルな形だが、本器は文様や突起でコテコテに装飾され、複雑怪奇な造形物に進化(?)している。各突起の先に龍のような獣の顔を付けているので、この壺はただならぬ靈氣を放つ「宝器」だと言いたいのであろう。

類品は、中国陝西省宝鸡市で出土し、米国メトロポリタン美術館に渡った酒器のセット(柵禁という。方台と13点の壺や壺を組み合わせた祭器)の中にあり、また近年(2012年)同じく宝鸡市から類似のセットが発掘され話題となった。本器は「はぐれ者」であるが、全体のバランスや装飾は他よりも優れており、私は勝手に「孤高の王者」と呼んでいる。最近、岡本太郎の彫刻「縄文人」(川崎市岡本太郎美術館蔵。1982年作。土器から気迫が吹き出る様子を造形化した作品)に似ていると気づいた。時空を越えたつながりがあるのかもしれない。

吉澤 悟(当館学芸部長)

迦樓羅王は、ガルダ(Garuda)というインド神話に登場する龍を食べる巨大な鳥で、仏教では釈迦の眷属の八部衆や、千手觀音の眷属の二十八部衆の中の一尊である。龍を食べることから、病気や、風雨、落雷などを除く力があるとされ、迦樓羅法という修法もある。その姿は本像のように鳥頭人身(頭は鳥で体は人間)で翼を持ち、横笛を吹く姿で表される。

本像は、京都の愛宕院仏寺に伝來した二十八部衆の内の一體で、本像を含む四体が、縁あって当館の所蔵に帰した。その均整のとれた姿から鎌倉時代の作と考えられるが、鎌倉以前の迦樓羅王像は、極めて珍しくその点においても貴重である。

館蔵品となってから修理を行い、前の修理で矧目からはみ出した接着剤を取り除いて表面をきれいにするなど、より制作当初に近い姿を取り戻した。しかし、今回の修理では、欠けてなくなってしまった右手先はあえて補わなかった。文化財の修理はオリジナルの尊重が原則で、必要以上に後世の創作を加えないという方針に沿ったからである。ご覧になった方々には、かつてどんな風に笛を吹いていたのか、想像を膨らませていただきたい。

岩井 共二(当館学芸部美術室長)

開館日時(7月～9月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

*特別展「南山城」会期中(7月8日～9月3日)は特別展・名品展とも午後6時まで。

*名品展のみ毎週土曜日は午後8時まで、8月15日(火)は午後7時まで。

*いずれも入館は閉館の30分前まで。

■休館日／毎週月曜日、7月18日(火)、9月19日(火)

*7月17日(月・祝)は開館。

*8月7日(月)、8月14日(月)、9月18日(月・祝)は名品展(なら仏像館・青銅器館)のみ開館。

*その他、臨時に休館日を変更することがあります。

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円
前売券	1,600円	1,100円

*高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはミライロIDをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

*奈良国立博物館キャンバスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。

*高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

■観覧料金

淨瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念 特別展
聖地 南山城 —奈良と京都を結ぶ祈りの至宝—

	一般	高校・大学生	小・中学生
当日券	1,800円	1,300円	600円
前売・団体券(20名以上)	1,600円	1,100円	400円

*前売券の販売は4月28日(金)から7月7日(金)まで。

*販売場所:当館観覧券売場(休館日は販売いたしません)、公式オンラインチケット・ローンチケット【コード: 55109】、チケットぴあ(通常チケット・特別チケット②)【Pコード: 686-451】、セブンチケット【セブンコード: 100-634】、楽天チケット、イープラス、CNプレイガイド【0570-08-9999(オペレーター対応)】まで販売

*障害者手帳またはミライロID(スマートフォン向け障害者手帳アプリ)をお持ちの方(介護者1名を含む)、奈良メンバーシップ・プレミアムカード会員の方(1回目及び2回目の観覧)は無料(要証明)。

*奈良国立博物館キャンバスメンバーズ会員(学生)の方は当日券を400円(要学生証)、同(教職員)の方は1,700円でお求めいただけます(要証明)。

*観覧当日に証明書・会員証などの提示が必要です(一般と小学生以下を除く)。

*本展の観覧券で、名品展(なら仏像館・青銅器館)もご観になれます。

*館内が混雑した際は、入場を制限する場合があります。

*本展は日時指定制ではありません。



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「水室神社・国立博物館」下車すぐ。

*当館には駐車スペースがございませんので近隣の県営駐車場等(有料)をご利用ください。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は94円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

 **奈良国立博物館**
NARA NATIONAL MUSEUM

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ <https://www.narahaku.go.jp/>